

南山大学人類学博物館

年 報

2011 年度

南山大学人類学博物館

巻頭言

人類学博物館のリニューアルも来年に迫り、5月2日をもって現在の人類学博物館は閉館する。今のG棟地下に移転したのが1985年のことだから、実に27年の長きにわたって、この場所で活動してきたわけである。

名残惜しいという気持ちを持つ人もいるかもしれないが、施設面でいえば、現状は決して博物館としては適切なものではない。否、環境上は劣悪といってもいいくらいである。そういう意味で言えば、新しい人類学博物館はようやく博物館らしい体裁を整えることになるわけである。

だが、反面で、いかに適切な環境を整えた施設を得ても、それが利用者にとって愛着あるものとしていかなければ意味がないことも事実である。そして、それは今後の我々の活動如何にかかっている。

われわれは、これまで人類学博物館を担ってきた諸先生・諸先輩方の意思を汲みながら、それでいて博物館に期待される今日的使命を全うできるように考えていかなければならないだろう。

「温故知新」

この言葉が、極めてリアルに響く今日この頃である。

2012年6月
南山大学人類学博物館

目次

1. 2011年度の人類学博物館の活動	1
(1) 教育普及活動	4
① 展示	4
② シンポジウム	4
③ 講座	5
④ 懇談会	6
⑤ 連携授業	6
⑥ 新博物館のための意見聴取会	7
⑦ その他	7
(2) 調査・研究活動	7
① 調査出張	8
② 研究活動	8
(3) 資料の収集・整備と利用	8
① 資料修復	8
② 館内の燻蒸	8
③ 購入図書	8
④ 受贈図書数	8
⑤ 資料貸出	8
⑥ 取材・調査のための来館者一覧	9
⑦ 撮影・他機関刊行物等への掲載	9
⑧ 当館紹介刊行物一覧	10
(4) 出版活動	10
2. 組織と運営	11
(1) 組織	11
(2) 開館・入館者実績	11
① 開館日数・入館者数	11
② 入館団体内訳	11
3. 規程	14
(1) 南山大学人類学博物館規程	14
(2) 南山大学人類学博物館運営委員会規程	15
(3) 南山大学人類学博物館資料評価委員会規程	16

1. 2011年度の人類学博物館の活動

(1) 教育普及活動

① 展示

1) 南山大学博物館実習生による企画展示

第1期：12月2日(金)～12月7日(水)

- ・『人と武器—From Hunt To Kill』
- ・『今を生きる昭和のファッション』
- ・『南山大学校舎探訪 ～私たちの知らない名古屋キャンパス～』
- ・『時をかける京都 ～京都の名所の移り変わり～』

第2期：12月16日(木)～12月21日(水)

- ・『セピックの心』
- ・『台所の家電～ライフスタイルの革命～』
- ・『南山大学と宗教行事』
- ・『地図に操られる国民 ～昭和の戦争を振り返って～』
- ・『戸長制度』

会場：名古屋キャンパス G 棟 人類学博物館第二展示室・人類学博物館ロビー

期間中の入館者：168名

2) 明治大学博物館・南山大学人類学博物館交流事業 明治大学博物館・南山大学人類学博物館交流事業合同特別展

「人類史への挑戦 南山大学考古・民族コレクション」

会期：2012年1月20日(金)～3月10日(土) 10:00～17:00

会場：明治大学博物館・特別展示室(アカデミーコモン B1 階)

総来場者数：4,214名

② シンポジウム

1) 南山学会合同シンポジウム

「博物館のキズナ」

日時：2011年11月23日(水) 15:00～18:00

会場：名古屋キャンパス R 棟1階 フラッテンホール

総合司会：濱田 琢司 氏(南山大学)

開会挨拶：ミカエル・カルマノ 氏(南山大学長・南山学会会長)

趣旨説明：赤壁 弘康 氏(南山学会常任理事)

基調講演：財部 香枝 氏(中部大学国際関係学部)「スミソニアン協会内部のキズナづくり」

講演1：井口 智子 氏(名古屋ボストン美術館)「名古屋ボストン美術館における社会連携の取り組み」

講演2：外山 徹 氏(明治大学博物館)「大学博物館連携における諸課題—合同展覧会の開催を通して—」

講演3：黒沢 浩 氏(南山大学)「人類学博物館のキズナ」

質疑応答 進行：黒沢 浩 氏(南山大学)

閉会挨拶：青木 清 氏（南山大学副学長・人類学博物館長）

2) 明治大学博物館・南山大学人類学博物館交流事業シンポジウム

「コレクションの再生——資源化される博物館資料」

日時：2012年1月21日（土）10：00～16：30

会場：明治大学駿河台キャンパス 100周年記念大会館 8F 会議室

基調報告 加藤 隆浩 氏（南山大学）「文化の資源化と文化の復興」

報告1 忽那 敬三 氏（明治大学博物館）「収蔵庫を発掘する

—茨城県玉里舟塚古墳の再整理事例から」

報告2 領塚 正浩 氏（市川考古博物館）「大学・地域博物館の連携とコレクションの文化資源化—G.グロート神父のコレクションを中心として」

報告3 日比佳代子 氏（明治大学博物館）「明治大学啓治博物館食収集資料の再評価」

報告4 黒沢 浩 氏（南山大学）「民族誌資料による文化表象と再文脈化」

討論

③ 講座

博物館の本来的な機能である普及事業の一環として、南山大学学生を含めた一般の方々を対象として、博物館講座とフィールドワークを開催した。

博物館講座は当館に収蔵されているユニークかつ豊富な資料を前に、専門的研究者の解説を聞きながら、資料と博物館に対する理解を深めていただくことを目的としている。2011年度は「道具とヒトをむすぶもの」を主題とし、道具を“作ること・使うこと”といった、私たちが当たり前のように行なっている行為の裏に何があるのかについて、各講師の専門の時代・地域の事例をもとに考えた。

フィールドワークは東海地方の考古学的な遺跡を現地で観察し、実感していただけるような機会を提供することを目的としている。観察する遺跡は、当館所蔵資料と関係の深い遺跡を中心に設定しており、現地で遺跡を観察することによって、当館の展示のより深い理解へと繋げる契機ともなっている。定員10名に対して14名の申し込みがあった。

1) 2011年度博物館講座『道具とヒトをむすぶもの』

第1回 5月28日（土）後藤 明 氏（南山大学）

「フネと人間のカラダ —巨大民具と身体の問題—」

第2回 6月11日（土）久保 禎子 氏（一宮市博物館）

「道具から考える暮らしの歴史」

第3回 6月25日（土）小林 繁樹 氏（国立民族学博物館）

「創造のための工夫 —あるいは道具人類学—」

第4回 7月9日（土）黒沢 浩 氏（南山大学）

「カンボジアの土器作り —考古学から民族事例へのアプローチ—」

受講者数：11名

2) 2011年度フィールドワーク『東海の考古遺跡を歩く 2011』

第1回 10月29日（土）事前指導 講師：黒沢 浩 氏（南山大学）

第2回 11月6日(日) 南濃地域の古墳と土地利用

現地講師：中井 正幸 氏・中谷 正和 氏 (大垣市教育委員会)

第3回 11月23日(水) 吉良の古墳をめぐる

現地講師：三田 敦司 氏・鈴木とよ江 氏 (西尾市教育委員会)

第4回 12月4日(日) 岡崎平野の古墳をめぐる

現地講師：伊藤久美子 氏・荒井 信貴 氏 (岡崎市美術博物館)

第5回 12月10日(土) 事後指導 講師：黒沢 浩 氏

申込者数：14名

④ 懇談会

「博物館カフェ ～新博物館についておしゃべりしましょ～」

2013年10月の南山大学人類学博物館リニューアル・オープンに伴い、新博物館造営関係者を講師に招き、博物館スタッフ、本学学生らと共に「新博物館」をテーマに討論を行なった。

講師：安齋 聡子 氏 (株式会社丹青社 プランニングディレクター)

日時：2011年5月12日 18:00～20:00

場所：名古屋キャンパス G棟 人類学博物館・学習室

参加者：22名

⑤ 連携授業

人類学博物館と名城大学附属高等学校との学習連携が始まって、今年で7年目を迎える。

今年度は、2年生を対象とした「異文化の理解」・「総合学習の時間」の授業として、「文化」という概念が想像(創造)されたものである、ということ、人類学博物館収蔵の考古資料・民族資料を用いて指導を行なった。授業では、実物を触ったり、観察したりする機会はもとより、自分たちの手で自分たちのテーマを掘り下げていく「調べ学習」にも重きを置いた。物事には様々な側面があり、一方向的な見方ではなく、複眼的な思考・視点を持つことが望ましい。これを理解するために、パプアニューギニア、タイ、さらには過去の日本の文化を題材とした。

今回の授業の総括として、各自が選択したテーマに関する発表を行わせた。成果を多くの人に評価してもらう機会を作ると同時に、プレゼンテーションの難しさや楽しさを学ぶ機会を提供した。

連携授業は以下の日程で行なった。

10月14日(火)：趣旨説明・意見聴取→「文化」とはなにか?・課題説明

課題提供：モノから物語を創造/想像する

10月21日(金)：班ごとの課題の発表(ストーリーと概要)→意見交換

10月28日(金)：授業(現在のパプアニューギニアの人々の生活)

実践(自分のアイデアをまとめる方法・KJ法)

11月4日(金)：授業(タイ山地民の現在の生活)

討論(各班での討論)。

11月11日(金)：第2回課題発表(概要)→意見交換

11月14日(月)：モノの観察(観察の方法の習得)

11月25日(金)：成果発表準備

12月9日(金)：成果発表準備

12月16日(金)：成果発表

⑥ 新博物館のための意見聴取会

1) 学校教員に対する意見聴取

対象者：名瀬地区高等学校社会科教育研究会

司会進行：黒沢 浩 氏 (南山大学)

日時：2011年6月14日 14:00～16:30

場所：南山大学 名古屋キャンパス G棟人類学博物館

2) 南山単位校教員に対する意見聴取

対象者：南山中学女子部教員

司会進行：黒沢 浩 氏 (南山大学)

日時：2011年7月1日 17:00～18:45

場所：南山大学 名古屋キャンパス G棟人類学博物館

参加者：10名

対象者：南山中学男子部教員・聖霊高校教員

司会進行：黒沢 浩 氏 (南山大学)

日時：2011年7月15日 17:00～18:45

場所：南山大学 名古屋キャンパス G棟人類学博物館

参加者：15名

3) 視覚障害者に対する意見聴取

司会進行：黒沢 浩 氏 (南山大学)

特別コメンテーター：広瀬浩二郎 氏 (国立民族学博物館准教授)

対象者：社会福祉法人 名古屋ライトハウス

日時：2011年7月7日 15:30～17:00

場所：南山大学 名古屋キャンパス G棟人類学博物館

参加者：25名

⑦ その他

1) 南山大学学長室主催 南山大学連続講座 2011「大学で、未来の自分を探してみよう！」

日時：2011年7月31日 「博物館の不思議なモノ達」

場所：南山大学名古屋キャンパス G棟 人類学博物館

参加者：18名

(2) 調査・研究活動

① 調査出張

1) 愛知県博物館協会総会

日時：6月28日 14：00～

内容：愛知県博物館協会主催「平成23年度 愛知県博物館協会総会」への参加。

出張者：西川由佳里

2) 著作権セミナー

日時：9月14日 9：30～

内容：文化庁・愛知県教育委員会主催「平成23年度著作権セミナー(愛知県会場)」への参加。

出張者：西川由佳里

3) 学芸員照明研究会 13：30～

日時：6月20日

内容：パナソニック電工汐留ミュージアム主催「LED照明の時代」への参加。

出張者：西川由佳里

4) 愛知県博物館等職員研修会 10：30～

日時：10月19日

内容：愛知県博物館協会、愛知県教育委員会主催「一想定東海東南海地震に備える一被災館と被災地域にある博物館」への参加。

出張者：西川由佳里

5) 国立民族学博物館 公開シンポジウム 13：00～

日時：10月29、30日

内容：国立民族学博物館主催『ユニバーサルミュージアムの理論と実践—博物館からはじめる手学問のすゝめ』への参加。

出張者：西川由佳里

②研究活動

1) 博物館セミナー

「博物館造営のオモテ・ウラ ～大学博物館の魅力を引き出すテクニック～」

日時：2011年5月12日 15：30～17：00

講師：安斎 聡子氏（株式会社丹青社 プランニングディレクター）

場所：名古屋キャンパス G棟 人類学博物館学習室

（3）資料の収集・整備と利用

① 保存処理

刀装具1点(岐阜県可児市)、轡1点・鉄鏝1点(群馬県勢多郡富士見村)、棺材等1点・剣鞘外皮の植物質1点・鉄刀1点(愛知県名古屋市白山藪古墳)

② 館内の燻蒸

8月27日(土)実施

③ 購入図書

43 冊

④ 受贈図書数

発掘調査報告書	一般図書・紀要・年報・図録・研究報告等	たより類
1318	640	311

⑤ 資料貸出

貸出先	資料名・点数	貸出期間	目的
明治大学博物館	置戸安住遺跡出土剥片 20 点 白滝服部台遺跡出土剥片 20 点	2011 年 4 月～ 2013 年 4 月	人類学博物館での講座および学部・大学院での授業について、教育目的での使用
みよし市立歴史民俗博物館 みよし市教育委員会	マリンガーコレクション 50 点	2011 年 6 月 21 日～ 2011 年 9 月 30 日	夏季企画展「調べてみよう！みよしの地層～三好層から探る地質と歴史～」への出展
栃木県立博物館	土偶 計 5 点	2011 年 9 月 13 日～ 2011 年 11 月 20 日	企画展「土偶の世界～縄文人のころ～」への出展
農と縄文の体験実習館 なじよもん	馬高遺跡出土土器 263 点、石器 3 点	2012 年 1 月 10 日～ 2013 年 1 月 10 日	平成 24 年度農と縄文の体験実習館秋季企画展の展示及び資料調査

⑥取材・調査のための来館者一覧

来館者名	資料名・点数	実施日
南山大学人文学部 長田友也氏	保美貝塚出土剥片 1 点	2011 年 6 月 30 日
南山大学人文学部 大塚達朗氏	保美貝塚出土土器資料一式	2011 年 5 月～ 2012 年 3 月
ヤオ族文化研究所	ヤオ人文書一式	2011 年 6 月 17, 18 日
名古屋市博物館	大須二子山出土資料、山ノ田古墳出土資料、八幡山古墳出土資料 計 51 点	2011 年 11 月 12 日
美濃加茂市民ミュージアム 藤村俊氏	昭和 37～46 年にかけての南山大学の長良川流域調査資料	2011 年 11 月 19 日

⑦ 撮影・他機関刊行物等への掲載

機関名	資料名	刊行物名等	刊行予定
京都府立大学大学院	大須二子山古墳出土 甲冑 6点	『明治大学・大阪大学・京都府立大学 考古学・古代史院生研究交流プログラム要旨集』	2012年
(有) アート・エフ	土器 1点	『中学社会 歴史 未来 区をひらく』	2014年4月1日 ～2018年3月末
名古屋市教育委員会	白山藪古墳出土 実測図：ヤリ、刀子、埴、埴輪、須恵器 写真：大刀、ヤリ 計14枚	「白山藪古墳の研究」『東海の古代③ 尾張、三河の古墳とその社会』	未定
名古屋市中区役所	大須二子山古墳出土 f字形鏡板付轡 吊金具 計2点	『早わかり 中区の歴史 一小学生版・名古屋市中区誌』	2012年3月1日
NHK エデュケーショナル	二ツ木貝塚出土 深鉢 1点	放送大学授業番組『日本の美術』	2012年4月～ 2014年3月
株式会社 たき CI	轡 f 字型鏡板付・鉄地金堂張 辻金具 雲珠 杏葉 画文帯四神四獣鏡 各1点	『中経連—CHUKEIREN』	2011年1月
凸版印刷	花輪台貝出土土偶 1点	『DOGU 縄文人が伝える日本のルーツ(仮)』(VR作品)	2012年1月
名古屋市博物館学芸課	大須二子山古墳、山ノ田古墳出土資料、八幡山古墳出土資料 計51点	企画展『志段味古墳群(仮称)』図録	2012年4月
南山学園史料委員会	花輪台貝塚出土土偶写真、大須二子山古墳出土資料写真、評皇券牒 各1点	『南山アーカイブスニュース』	2011年10月28日
鳥取県埋蔵文化財センター	保美貝塚、大草南貝塚出土資料	『青谷上寺地遺跡フォーラム 2011 弥生・骨角器サミット～青谷上寺地遺跡の交流をさぐる～予稿集』	2011年10月1日
愛知県総務部法務文書課	白山藪古墳出土須恵器	『愛知県史 別編 窯業1 古代 猿投系』	2014年
みよし市教育委員会	マリンガーコレクション	『調べてみよう！みよし』	2011年6月21日

	ン、計 50 点	の地層～三好層から探る地質と歴史～』	～2011年9月30日
愛知県陶磁資料館友の会機関誌“釉人”編集員	姥山貝塚、清水貝塚出土土器	愛知県陶磁資料館友の会機関誌 84号『わたしの好きなやきもの』	2011年9月
愛知県埋蔵文化財センター 川添和暁氏	大草南遺跡、保美貝塚出土骨角器、石器 計 14 点	『先史社会考古学—骨角器・石器と遺跡形成からみた縄文時代晩期』	2011年5月
朝日新聞出版 編集書籍部	花輪台貝塚出土土偶	『発掘された日本列島 2011—新発見考古速報』	2011年6月17日
栃木県立博物館	花輪台貝塚・清水貝塚・入海貝塚・立木貝塚・江原台出土土偶 5 点	栃木県立博物館第 101 回企画展図録『土偶の世界—縄文人のころ—』	2011年9月22日
山川出版社	二ツ木貝塚出土資料 1 点	『高等学校日本史』	2014年4月
(有)コーベック・フォトエージェンシー	縄文土器 1 点	『ダブル・トライ社会の学習 歴史』、『教科書マスター社会』	2012年4月

⑧ 当館紹介刊行物一覧

機関名	内容	刊行物名
中日新聞社	紹介文・写真	『中日新聞』2011年5月6日刊行
中日新聞社	紹介文・写真	『中日新聞』2011年6月23日刊行
毎日新聞社	紹介文・写真	『毎日新聞』2012年1月29日刊行

(4) 出版活動

1. 『南山大学人類学博物館紀要』第 30 号
2. 『南山大学人類学博物館年報 2010 年度』
3. 『明治大学博物館 南山大学人類学博物館 合同特別展図録
人類史への挑戦 南山大学考古・民族コレクション』

2. 組織と運営

(1) 組織

1) 職員

館長	青木 清	(副学長 (教学担当) / 法学部教授)
担当教員	黒沢 浩	(人文学部人類文化学科准教授)
特別嘱託職員	竹尾美里	(休職中：2011年4月1日～2012年5月8日)
	西川由佳里	
臨時職員	伊東亜紀	(2011年9月30日退職)
	手塚朋子	
	嶋田奈緒子	(2011年4月1日着任)
	東夕子	(2011年6月1日着任)
	吉留正樹	(2011年10月19日着任)

2) 博物館運営委員会

委員長	黒沢 浩	(人文学部准教授)
委員	西江清高	(博物館学芸員養成課程委員会委員長)
	加藤隆浩	(外国語学部教授)
	大塚達朗	(人文学部教授)
	濱田 琢司	(人文学部日本文化学科准教授)
	大川 隆	(教育・研究支援事務室長) (2011年)

3) 資料評価委員会

委員長	大塚達朗	(人文学部教授)
委員	加藤隆浩	(外国語学部教授)
委員	後藤明	(人文学部教授)

(2) 開館・入館者実績

①開館日数・入館者数

開館日数	入館者数 (授業以外)	団体数	団体人数
276	4684	50	4,349

②入館団体内訳

・大学見学

日付	団体名	人数	担当課室
4月14日	三重県私立高田高等学校	43	入試課
4月19日	名古屋市立名東高等学校	40	入試課
4月21日	滋賀県立河瀬高等学校	39	入試課
4月22日	岐阜県立可児高等学校	7	入試課
4月28日	三重県私立鈴鹿高等学校	22	入試課
4月28日	愛知県立岩倉総合高校	20	入試課
5月26日	愛知県立武豊高等学校	69	入試課
5月27日	愛知県立富田高等学校	14	入試課

5月27日	愛知県立尾北高等学校	29	入試課
5月27日	愛知県立新城東高等学校	41	入試課
6月16日	愛知県立加茂高等学校	118	入試課
6月17日	三重県立メリノール女子学院高等学校 保護者	25	入試課
6月20日	岐阜県立商業高等学校保護者	56	入試課
6月21日	愛知県南山国際高等学校保護者	48	入試課
6月22日	愛知県立名古屋南高等学校保護者	49	入試課
6月23日	愛知県愛知工業大学名電高等学校	43	入試課
6月24日	岐阜県多治見西高等学校附属中学校	7	入試課
6月28日	愛知県立瀬戸西高等学校保護者	43	入試課
6月28日	愛知県立千種高等学校保護者	43	入試課
6月29日	愛知県立長久手高等学校保護者	31	入試課
8月23日	岐阜県岐阜第一高等学校	18	入試課
8月25日	富山県立小杉高等学校	21	入試課
8月25日	富山県八尾高等学校	67	入試課
9月26日	岐阜県立多治見高等学校保護者	71	入試課
9月28日	岐阜県立岐阜東高等学校保護者	148	入試課
9月29日	長野県立飯田風越高等学校	42	入試課
9月30日	愛知県立春日井高等学校保護者	74	入試課
10月21日	静岡県立島田高等学校	90	入試課
10月26日	静岡県立藤枝西高等学校	25	入試課
11月9日	愛知県私立南山高等学校女子部	9	入試課
11月10日	岐阜県立各務原西高等学校	92	入試課
11月10日	静岡県私立聖隷クリストファー高等学校	30	入試課
11月14日	長野県立松本県ヶ丘高等学校	41	入試課
11月18日	愛知県私立南山高等学校男子部	44	入試課
12月19日	三重県立飯野高校	48	入試課
2月17日	三重県立尾鷲高等学校	35	入試課

・大学行事

日付	行事名	人数
7月17日	オープンキャンパス	544
9月26日	父母のつどい	31
10月10日	体験入学会	122
3月17日	保護者のためのオープンキャンパス	

・大学見学以外の団体 ※は職業体験

日付	団体名	人数
----	-----	----

6月14日	名瀬地区高等学校社会科教育研究会	30
6月17日～18日	神奈川大学ヤオ族文化研究所	9
7月5日	名古屋大学博物館	26
7月14日～15日	愛知中学※	5
7月23日	ゆきやなぎ	13
7月26日	名古屋市高年大学鯉城学園	14
7月27日	東海地域古墳見学会	20
9月22日	名古屋市高年大学鯉城学園 「歩いて知ろう会」	46
10月1日	日本文化人類学会中部地区研究懇談会	20
10月11日	南山中・高等学校女子部	56
12月20～21日	南山中・高等学校女子部※	11
1月24日	名古屋大学文学研究科	13
1月27日	南山中・高等学校男子部※	3
3月2日	國學院大學	30

3. 規程

(1) 南山大学人類学博物館規程

(目的)

第1条 南山大学学則第44条の2にもとづき、南山大学に南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）を置く。

② 博物館は、「人類学（文化資源学、考古学、民俗学および民族学を含む。）」（以下「人類学」という。）に関する資料の収集、調査、解析、収蔵、管理、保存、展示、公開などを行ない、南山大学の学生、職員および社会の利用に供し、教育・研究に資することを目的とする。

③ 博物館の組織および運営については、この規程の定めるところによる。

(事業)

第2条 前条第2項の目的を達成するため、博物館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- 1 人類学に係る調査、収集、保存、管理および解析
- 2 人類学の展示および公開
- 3 人類学に関する情報提供
- 4 人類学に関する教育研究の支援
- 5 博物館所蔵資料を利用した生涯学習の企画および運営
- 6 博物館および博物館に従事する職員の資質向上に寄与する学芸員の養成

(館長)

第3条 博物館に館長を置く。館長は副学長（教学担当）とする。

② 館長は、博物館の事業を統轄し、博物館を代表する。

(担当教員)

第4条 博物館に博物館担当教育職員（以下「担当教員」という。）を置く。

② 担当教員は、博物館活動の企画・運営に従事する。

③ 担当教員は、学長が指名する候補者について、大学評議会の承認を得て委嘱する。

(運営委員会)

第5条 博物館の運営に関する重要事項を協議し、諸事全般を決定する機関として南山大学人類学博物館運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

② 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(資料評価委員会)

第5条の2 第2条第1項第1号に定める収集事業を適正に遂行するために、南山大学人類学博物館資料評価委員会（以下「資料評価委員会」という。）を置く。

② 資料評価委員会に関する規程は、別に定める。

(規程の改正)

第6条 この規程の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、博物館の運営について必要な事項は、運営委員会の議を経て、館長が別に定める。

附 則

この規程は、2005年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2006年7月1日から施行する。

(2) 南山大学人類学博物館運営委員会規程

(目 的)

第1条 南山大学人類学博物館運営委員会（以下「委員会」という。）は、南山大学人類学博物館規程第5条にもとづき、南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）の運営に関する重要事項を協議し、諸事全般を決定することを目的とする。

(組 織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 1 博物館担当教育職員（以下「担当教員」という。）
- 2 博物館学芸員養成課程委員会委員長
- 3 学長より指名された者若干名

② 委員は、大学評議会の承認を経て、学長が委嘱する。

③ 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(所掌事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- 1 博物館の予算（案）および決算（案）に関する事項
- 2 博物館資料の収集選択に関する事項
- 3 博物館関係規程の制定または改廃に関する事項
- 4 博物館の事業に関する事項
- 5 その他博物館の管理運営に関する重要事項

(議事運営)

第4条 委員会に委員長を置き、担当教員をもってあてる。

② 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

③ 委員長に支障のあるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

④ 委員会は、特に定めのある場合のほか、委員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数をもって議決する。

⑤ 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事 務)

第5条 委員会の事務は、教育・研究支援事務室が担当する。

(規定の改正)

第6条 この規定の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑 則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、2005年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2006年7月1日から施行する。

(3) 南山大学人類学博物館資料評価委員会規程

(目 的)

第1条 南山大学人類学博物館資料評価委員会（以下「委員会」という。）は、南山大学人類学博物館規程第5条の2にもとづき、南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）において行なう博物館資料の収集に関する事項を協議し、決定することを目的とする。

(組 織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

1 南山大学人類学博物館運営委員会委員2名

2 博物館長より指名された者若干名

② 委員は、大学評議会の承認を得て、学長が委嘱する。

③ 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(所掌事項)

第3条 委員会は、博物館資料の寄贈の申入れについて、南山大学人類学博物館運営委員会の諮問に基づき、その可否を審議、決定する。

(議事運営)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

② 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

③ 委員長に支障のあるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

④ 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数をもって議決する。

⑤ 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事 務)

第5条 委員会の事務は、教育・研究支援事務室が担当する。

(規程の改正)

第6条 この規程の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑 則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、2006年7月1日から施行する。

NANZAN UNIVERSITY

2012年 5月 25日 印刷

2012年 5月 25日 発行

南山大学人類学博物館年報 2010年度

編集・発行 南山大学人類学博物館

466-8673 名古屋市昭和区山里町18

phone 052 (832) 3111 内線 5223

印刷 株式会社ウエルオン

460-0007 名古屋市中区新栄 3-21-31

TEL 052 (732) 2227